

パイロット育成で協定

崇城大と沖縄の航空会社

人材育成に関する協定の調印式で握手する崇城大の中山峰男学長（右）と琉球エアークommunicーターの伊礼恭社長（左）、熊本市西区



崇城大（熊本市西区）と、琉球エアークommunicーター（沖縄県）は9日、人材育成に関する協定を結んだ。2019年度から、同大工学部の航空操縦学専攻（2年間）の研究生を対象にした奨学金制度を新設する。

同社は、那覇市を中心に、奄美大島や与那国島など、鹿児島や沖縄の離島を結ぶ航空会社。毎日12路線40便以上を運航している。協定は同大に「人材の確保と育成を目的に協定を結びたい」と同

社が申し入れた。毎年2人程度を選抜し、パイロットの資格取得に必要な訓練費や生活費の計約2千万円を支援する。同社で一定期間就労すれば奨学金返還を免除する。

この日、同大であった調印式では、中山峰男学長が「教育機関として、将来のパイロットを育てていきたい」、伊礼恭社長は「人材を確保し、安定的な就航によって地域発展に貢献していきたい」と述べた。（宮崎翼）